

研究者主導臨床試験のあり方を考える会 -がん研究を中心として-

会の目的

研究者主導臨床試験の基盤整備と質向上・行政への反映を目指して、相互の情報交換による現状の把握を行い今後のあるべき姿について議論する。将来は、臨床試験にかかわる関係者の学習の場としても活用する。また可能なら、上記の目的のために必要な提言を、ガイドライン等のかたちで発行することを課題としたい。

開催場所： 国立がんセンター研究所 1F セミナー室

開催日時： 2001年12月14日（金曜）13:00-17:40

参加費（資料代）： 1000円

プログラム

演者の方々のご都合で若干変更させていただきました。なお、当局の方にも適宜コメントをいただく予定です。

司会 大橋靖雄

13:00-13:30 開催にあたって

あいさつ	大橋靖雄（日本臨床研究ユニット）
研究者主導研究の意義と今後の方向	下山正徳（国立がんセンター）

13:30-15:10 研究グループの組織と運営

JCOG	福田治彦（国立がんセンター）
JMTO（日本・多国籍臨床試験機構）	福島雅典（京都大学）
WJTOG（西日本胸部腫瘍臨床研究機構）	山本信之（近畿大学）
JALSG	朝長万左男・宮崎泰司（長崎大学）
TCOG（東京がん化学療法研究会）	栗原稔（桜会病院）
CSPOR-BC（乳がん臨床研究支援事業）	渡辺亨（国立がんセンター）
EBM センター	坂本純一（京都大学）
臨床研究支援センター（国立国際医療センター）	山崎力（東京大学）

休憩

15:30-16:30 研究者主導研究のインフラ整備と実務

UMIN による臨床試験と security	木内貴弘（東京大学）
データマネジメントと統計	石塚直樹（国立がんセンター）
スタッフの教育	斉藤裕子（国立がんセンター）
施設監査	新美三由紀（国立がんセンター）

16:30-17:00 今後への期待

市販後臨床試験の問題	鈴木英明（協和発酵）
アメリカの研究者主導研究の教育と雇用	佐藤ゆか（ミシガン大学）

17:00-17:40 総合討論

司会 下山正徳